

現場状況に応じた 床施工の環境整備と労力評価

日本床施工技術研究協議会第18回公開セミナーより〈前編〉

1. 開会の挨拶

日本床施工技術研究協議会
会長

横山 裕
(東京工業大学教授)



現場の平面形状や役物の有無が 施工にどう影響するか

我々の足が常に触れることになる床は、日常生活に大きな影響を与える部位であり、その出来、不出来は建物の質を左右します。しかし、施工に関して工期や費用などの制限があると、そのしわ寄せで、設計図通りに出来ていない、あるいは設計図通りであっても、施主のイメージと違うものになっているなどして問題になることも多いと聞きます。

そのような問題をなくすために本会では、要求性能に応じた施工のメニューというものを一覧にした施工要領書を作るべく、作業を進めています。ただ、本会の施工要領書のみならず、通常、施工要領書は、施工に適した天候や温湿度などを想定した内容になっています。しかし実際の施工は猛暑、酷寒などの環境下でも行われることがあり、昨年(2022年)開催した第17回セミナーでは、そうした環境での施工における追加労力についてご報告しました。

今回はその続きにあたる内容で、現場の平面形状や役物の有無が施工にどのような影響を与えるかを考えていきます。このテーマでセミナーを行う以上は、元請や設計の方、最終的には施主の方に聞いていただきたいと考えていたところ、本日は参加された方の4分の1以上が元請や設計の方だということで、非常にうれしく思っています。

本日の発信内容がすぐに反映されるとは思いませんが、このような施工者の声があるということを知っていただければ幸いです。

2. 主題解説

日本床施工技術研究協議会
企画委員長

横井 健
(東海大学教授)



いつも「普通の施工環境」を準備できるのか

今日の総合テーマは「現場状況に応じた床施工の環境整備と労力評価」です。

これまで当会で取り纏めてきた「性能指向型施工要領書」は、職人さんに適正な費用が支払われる環境を整備していい床を作ってもらい、ひいてはランニングコストを下げることにつなげようという狙いがあります。「塗り床編」「張り床編」を纏めたことで、施工要領書の作業は一段落ついたのですが、次のステップとして、他の仕上材の要領書を作成するとともに、今「普通の施工環境」をもう少し真剣に考えていこうということになりました。

床は、下地…多くはコンクリートになるでしょうが、その上に多様な仕上材が施工されています。下地をお米、仕上材をネタとして、握りずしに当てはめるとわかりやすいと思います。お米の上に、さまざまな種類の仕上げ、つまりネタが乗せられていくわけですが、ネタがいくら良くても、お米の状態がよくないのでは、おいしいお寿司にはなりません。

値切りは不具合を招く

床下地コンクリートは、通常平米単価請負での契約に